

自然博物館
ニュース

A·MUSEUM

vol.4



ア・ミュージアム
ミュージアムパーク
茨城県自然博物館



海辺には新たな発見がいっぱい



「水の生きものコーナー」の【磯の生きものたち】

当館では毎月第4日曜日に自然観察会を実施しています。今年度第2回目の自然観察会を去る5月28日(日)にひたちなか市の平磯海岸で実施しました。

当日は天候にも恵まれ、頬をなでる潮風も心地いい絶好の観察会日和で、長靴にリュック、手にはスコップとバケツという、まるで「観察会の鉄人」という出で立ちの参加者の皆さんは「海辺の生物の観察」というテーマを楽しみながら、時間の経つのも忘れて熱心に観察していました。動物ではアメフラシ、ヒトデ、カニやヤドカリの仲間、海藻ではホンダワラの仲間、アラメ、テングサなどが実際に観察出来ました。海辺での観察の後、大洗水族館の施設を見学した参加者の皆さんには、自然観察会へ参加した感想を「とても楽しく勉強になった」「図鑑でしか見たことのなかったものに初めて触れた」「次回も是非参加したい」と話していました。

自然観察会は、県内の豊かな自然を観察することにより、自然についての理解を深め、自然に親しむ心を育むことを目的に毎月実施しております。あなたもお好きなテーマを選んで参加し、新たな発見と感動を体験してみませんか。

第3回企画展 絶滅動物からのメッセージ —緑と水の世界からゴビの砂漠まで—

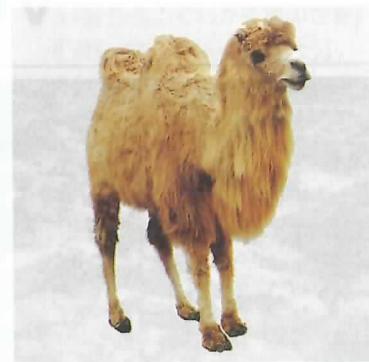
Message From Extinct and Endangered Creatures: From the Realm of Green and Water to the Dry and Windy GOBI



プロトケラトプス



キロテリウム全身骨格



フタコブラクダ剥製

内蒙古自治区は中華人民共和国の北部に位置しています。北に広がるゴビ砂漠は恐竜化石のメッカとして知られています。

今回の企画展では、内蒙古自治区から産出した動物などの化石や現在数が少なくなっている現生の動物を紹介します。

第1部は『恐竜たちの王国』と題し、中生代白亜紀のプシッタコサウルスやバクトロサウルス、プロトケラトプスなどの恐竜化石やヌオエロサウルスの実物の歯や脊椎骨などを展示するほか、砂嵐のような環境の変化により孵化せずに化石となった子どもの入った卵化石も見ることができます。

第2部は『哺乳動物たちの世界』で、第三紀の哺乳類では、バクやサイなどの奇蹄類やゾウ類などを紹介します。第四紀の哺乳類で

は、松花江マンモスの下顎骨や臼歯化石、大変珍しい舌骨化石のほかナウマンゾウ、ブチハイエナ、アンダーソンダチョウなどのシラウス動物群と松花江マンモス、ケナガマンモス、コエロドンタなどのマンモス-コエロドンタ動物群の化石を見ることができます。

第3部は『内モンゴルの絶滅の危機に瀕する希少動物』です。近年、経済の発展や人口の増加や開発により生息の範囲がせばまったり、生息の環境の変化で数が少なくなりつつある内モンゴルの草原、乾燥地帯、山岳などにすむユキヒヨウ、ライチョウ、オコジョ、ベニハシガラス、サケイなどの動物の他に、内モンゴルの民族や生活についても紹介します。

[主な展示物]

第1部

『恐竜たちの王国』

- ・バクトロサウルス全身骨格
- ・プロトケラトプス産状化石
- ・ヌオエロサウルス実物化石
- ・恐竜の子供の入った卵の巣

第2部

『哺乳動物たちの世界』

- ・キロテリウム全身骨格
- ・コエロドンタ全身骨格
- ・松花江マンモス実物化石
- ・古人類化石

第3部

『内モンゴルの絶滅の危機に瀕する希少動物』

- ・ユキヒヨウ
- ・モンゴルガゼル

企画展イベント

講演会:「モンゴルの恐竜」

日本の恐竜研究の第一人者

長谷川善和博士(横浜国立大学名誉教授)

平成7年7月16日(日)13:00~

講堂・映像ホール

●開館時間 9時30分~17時
(入館は16時30分まで)

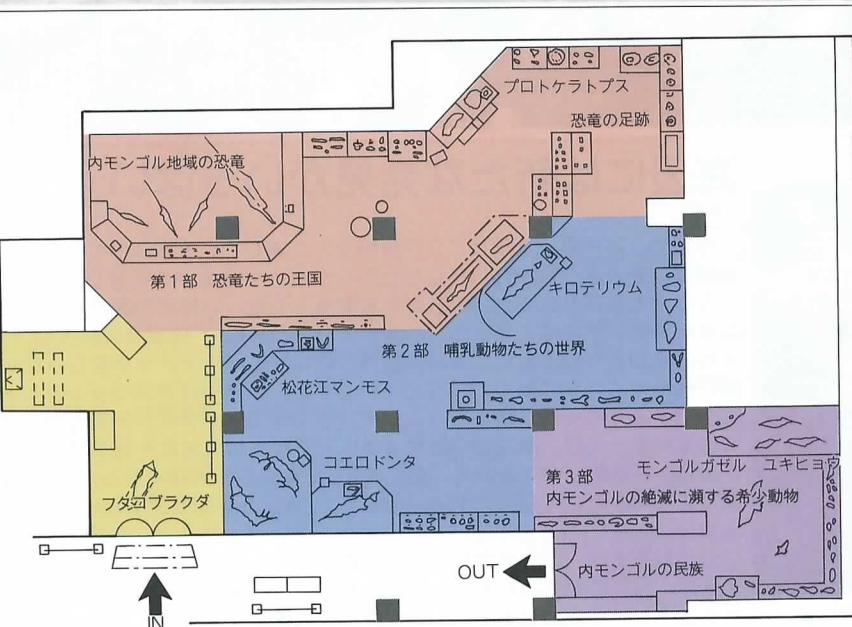
●休館日 毎週月曜日

●入館料 小・中学生 160円(80円)

高校・大学生 480円(320円)

一般 800円(640円)

※()内は20名以上の団体料金



研究ノート●菅生沼および周辺の自然(3)

およそ200万年前に始まり現在に至る第四紀と呼ばれる時代は非常に気温の変動の激しい時代で、氷期と間氷期を繰り返していました。当館の東に接する菅生沼は直接氷河などにおおわれたわけではありませんが、海平面の上下(海進・海退)による影響を大きく受け、その跡が残されています。

まずは、これまでにわかっている情報から、右の写真にあるような現在の菅生沼がどのような歴史を経て今日にいたっているのか、そのおおまかなあゆみをたどってみましょう。

13万年前頃(最終間氷期)

気温が温暖な時期でした。そして海水面は今より7mくらい上昇して、関東平野一帯には図1にあるように古東京湾とよばれる広い内湾が広がりました。この海に堆積した地層は成田層と呼ばれ多くの化石を含んでいます。

本館に近い水海道市の鬼怒川河畔(玉台橋付近)では、この時代にできた地層の中からバカガイ、イタボガキ、タマキガイ、ヤツシロガイなどの多くの貝や有孔虫の化石が産出します。

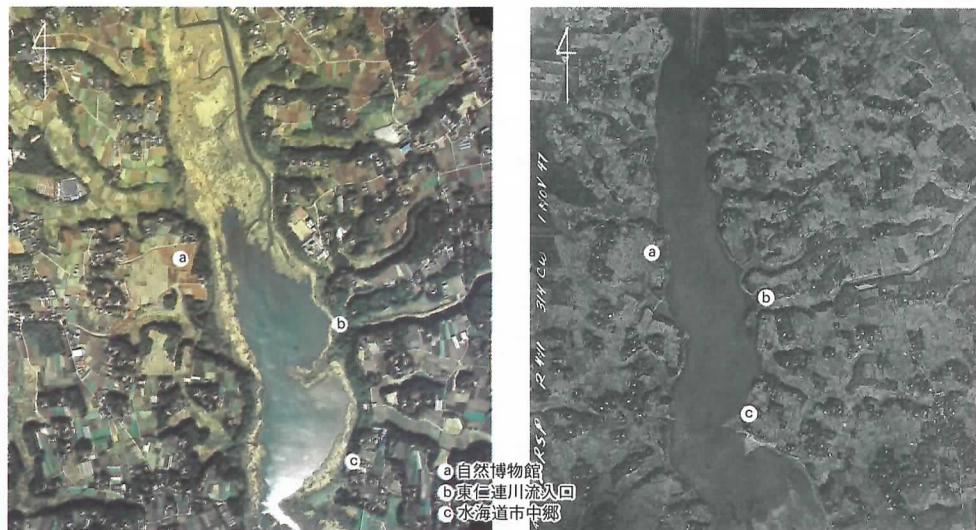
2万年前頃(最終氷期)

気温が下がり海水面は現在より100m以上も低下し、先の間氷期に堆積した地層は台地となって地上に現れました。(図2)そして、その台地を河川が削り、谷が刻まれました。菅生沼もその谷のひとつでした。

6千年前頃(縄文時代)

最終氷期が終わり暖かくなると、海水面も現在より3mほど上昇しました。いわゆる縄文海進です。

そして氷期にできた谷まで海が入り込んできました。海進はこの菅生沼の周辺



現在の菅生沼

まで進みました。

この時期の海岸線の様子は当時の貝塚の跡からも知ることができます。(図3)

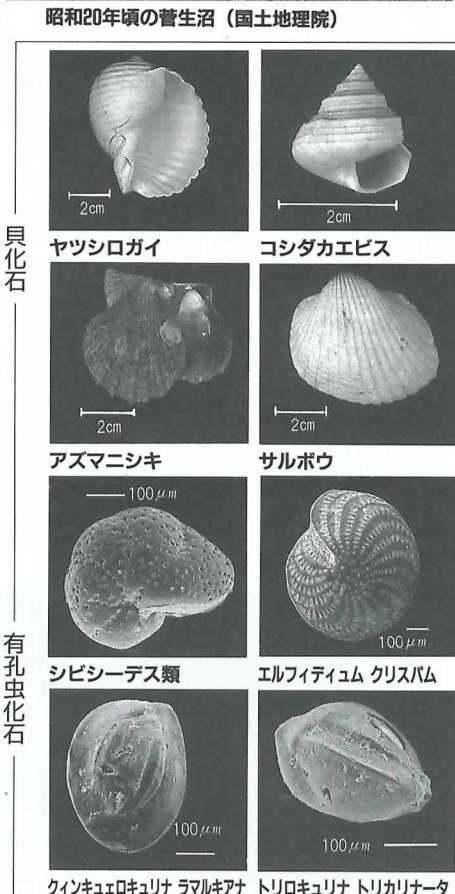
5千年前(堆積の影響)

海水面は少しずつ低下し、5,000年前頃には現在とほぼ同じになりました。

海水面の変動が落ち着いてからは、河川が運ぶ土砂が影響を与えました。まず、利根川が運んできた土砂によって出口をふさがれ、いくつかの沼や湿地ができました。その一つが菅生沼です。

そして江戸時代の飯沼の干拓の事業のときに、その水を落とす場所として菅生沼が選ばされました。その結果、江川、西仁連川、飯沼川の3本の川が菅生沼の北側から流れ込むことになり、土砂の堆積が進みました。その影響で上沼と呼ばれる北半分は湿地化し、下沼と呼ばれる南半分だけに水面が見られるようになります。

しかし、その下沼も昭和に入ってから東仁連川が流路変更で流れ込むこととなり、たいへん浅くなっています。



今後の研究の方向性

前述の鬼怒川河畔のように菅生沼から少し離れた所では露頭での調査ができるところも何ヵ所かありますが、菅生沼周辺には露頭がほとんどなく、地学分野の研究はそのほとんどをボーリング資料にとらなければなりません。

それらの限られた資料の中から得られる有孔虫、花粉、珪藻などの微化石や堆積物と火山灰などの情報から、できるかぎり過去の環境を調べていきたいと考えています。

(教育課: 潤本)

関東平野の変遷



図1

図2

図3 (貝塚、1977)

約13万年前

約2万年前

約6千年前

展示室紹介●自然のしくみ

地球の誕生から46億年。その長い歴史を経て、今私たちが見ている自然がかたちづくられました。現在、地球上には1,000万種類以上の生き物がいると考えられています。

この展示室では、まず、その多様に変化した世界の珍しい動物や植物を紹介します。続いて私たちの身近な所に目を向けています。

土の中、森の中、水の中の生き物について、そこにすむ生き物の生活の様子や生き物同士の関係をジオラマや映像、さらには生きた生物の展示などで分りやすく紹介します。

私たちが何気なく見ている森や沼の中にも様々な生き物が一生懸命生きていることに気付くことでしょう。

展示項目一覧

世界の生態系

1. 地球上のさまざまな生物
2. 世界のくだもの
3. 世界の気候と生き物たち

茨城の生態系

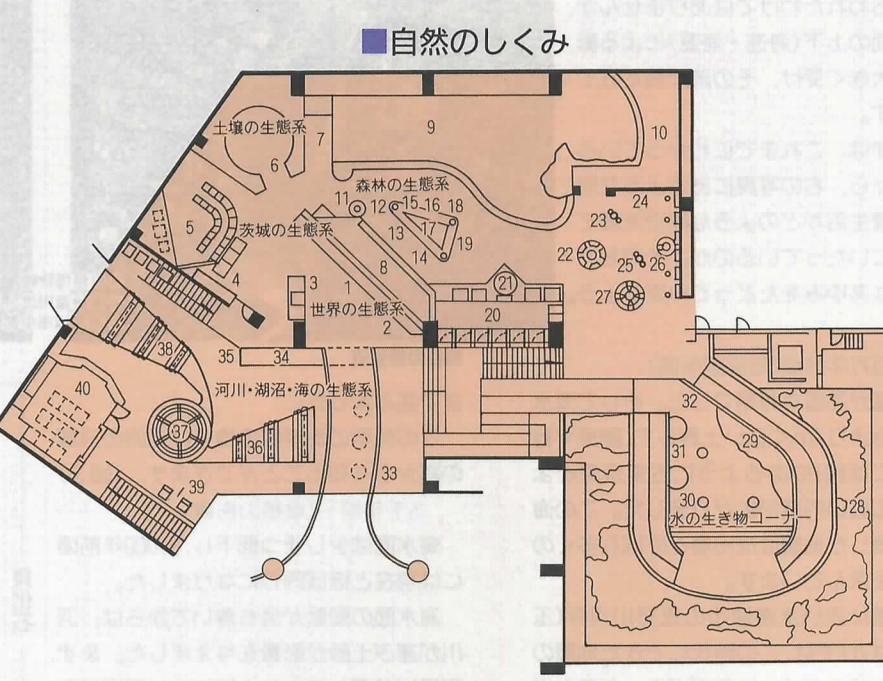
4. 空から見た茨城
5. シアター四季のうた

土壤の生態系

6. 土の中の生き物

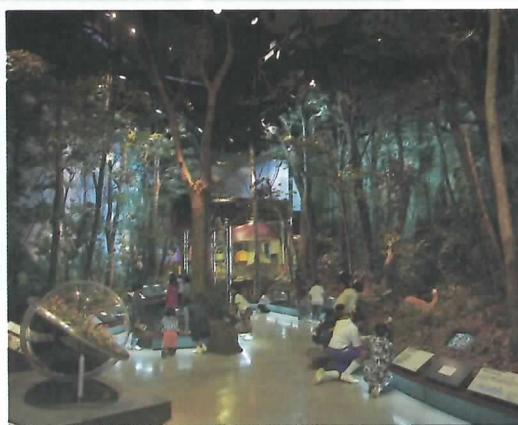
森林の生態系

7. 森のQ&A
8. 茨城の平地林
9. 茨城の山地林
10. 山地林の夜の生態
11. 樹液に集まる虫
12. 昆虫の擬態
13. オトシブミのひみつ
14. 虫の鳴くしくみ
15. チョウと食草
16. トカゲとヘビ
17. 鳥のさえずりと活動場所
18. アリジゴクの生活
19. 足あととの観察
20. 植物の形
21. カタクリの生活
22. ハチの巣のいろいろ
23. 冬芽のいろいろ
24. 一本の木に集まる虫
25. 葉の落ちた狼
26. 一本のブナにつく葉と実の量
27. 鳥の巣のいろいろ



河川・湖沼・海の生態系

28. 茨城の水系
29. 湖沼の生き物(ジオラマ)
30. イトヨのコミュニケーション
31. 湖沼の生き物たちのつりあい
32. アニマルボイス
33. 海藻の森
34. 海の深さと生き物
35. 海の哺乳類
36. 暖流系の生き物たち
37. 海流の潮目
38. 寒流系の生き物たち
39. 海辺の生き物のふしぎな行動
40. 海底探検シミュレーション
「潜水艇いばらき号」



森の中に入ったような巨大なオープンジオラマ(上)。花や草、木の葉は全て精巧に作られたレプリカで、本物そっくり。森の中にはけものや鳥、昆虫がすんでいます。

自分が小さくなったような錯覚をおこすのは土の中の生き物の拡大ジオラマ(右)。キノコもムカデも全て100倍。この小さな生き物たちが、落ち葉などを土に返す大切な働きをしています。



左：森林の生態系



土の中の生き物



海の生態系

久慈川水系をモデルに上流から下流、海を再現した水槽に生きた魚が泳ぎます。水面の上にも各環境をジオラマで再現。水族館的手法と博物館的手法の合体で実現した新しい展示です。また、暖流・寒流のぶつかりあう茨城の海の特徴を、そこにはむ魚とともに紹介しています。最後は、「潜水艇いばらき号」で海底探検の疑似体験をしながら、海の生き物クイズに挑戦しよう。

歳時記○オオタカビアオバズク

ヨシ原が青々と風にそよぎ、木陰がそろそろ恋しくなってくる初夏の頃は、多くの鳥たちにとって次の世代を育む季節といえます。

菅生沼で一年を通して観察できる中型のタカに、オオタカがいます。その造巣は厳寒期の2月頃から始まり、4月の上旬頃に産卵をおこないます。5月中旬に孵化したヒナたちは、6月下旬頃に巣立ちます。オオタカは沼やその周辺のアシ原などに生活する水鳥などを狙って出現するのですが、菅生沼はそのヒナたちの旺盛な食欲を満たすために好適な環境を備えているものと考えられます。

ところでオオタカの一般的な営巣環境としてはアカマツ林が知られていますが、菅生沼の周辺にはまとまった面積のアカマツ林は存在しないことから、代替えの針葉樹林などで営巣をおこなっているのではないかと想像されています。



オオタカ *Accipiter gentilis*
タカ目タカ科



アオバズク
Ninox scutulata
フクロウ目フクロウ科

夏鳥として5月の初め頃に渡来し、夜間に活動が活発な猛禽類としてアオバズクがあげられます。甲虫類やガ等をエサとする小型のフクロウで、5月の下旬頃までに産卵をおこない、6月の終わり頃にはヒナを孵します。菅生沼周辺のケヤキの大木や、社寺林などで「ホツ、ホー」という特徴のある声が聞かれます。

鳥たちにとって大切なこの季節、私たちはその生活を乱すことなく静かに見守ると同時に、その生息環境についても少し考えてみたいたいものです。

(教育課：山崎)

収蔵品紹介○ラフレシア・アルノルディ(*Rafflesia arnoldii* R.Br.) ラフレシア科

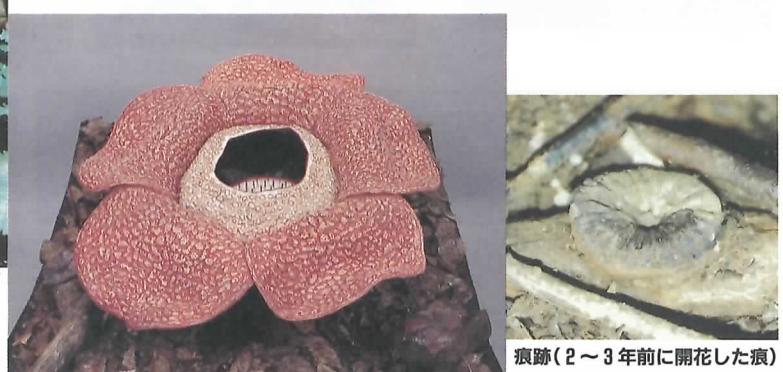


つぼみ 上：直径約10cm
右：直径約20cm
(開花数日前)

直径1mを超えることもある世界最大の花を咲かせる植物ラフレシアは、花の大さのみならず、その風貌も、また生態もたいへん珍奇な植物です。

この植物は熱帯林内の薄暗い地面に花だけがあり、一見茎も葉もないよう見えます。よく見るとブドウ科のミツバヒンボウカズラというつる植物の根や茎に花がついています。じつは、ラフレシアはこのつる植物からすべての養分をもらって生活している寄生植物なのです。

つる植物の中で2~3年過ごしたあと、樹皮を破って表に顔を出します。つぼみは褐色の大きなキャベツのようです。花を咲



本館収蔵のレプリカ標本
(向かって右側につぼみがある)

かせるまで数ヶ月もかかります。

怪奇な形と色をもつ花は肉の腐ったような臭いを発し、腐肉に集まるキンバエが花粉の運び屋の役目をするといわれます。

ラフレシアは東南アジアの熱帯多雨林(インドネシア、マレーシア、タイ南部、フィリピン)のみに生育し、10数種が知られています。その中で最も大きな花をつけるのはラフレシア・アルノルディです(写真)。こ

れは、1818年ラッフルズとアーノルドによりスマトラ島で発見された最初のラフレシアでもあります。名前は発見者にちなんで命名されました。

博物館に収蔵されているラフレシア・アルノルディのレプリカ標本は現地で型どりをした実物大の標本で、直径約65cmあります。移動博物館等で皆さんの中に姿を見せる予定です。

(資料課：小幡)

写真提供
望月和男氏
(下妻市)

レポート○野外セルフガイド

4月下旬、キジの卵が5個、園内の草むらに産卵されているのを、野外を管理している人が発見しました。また、5月の連休には、石の穴の中でシジュウカラのヒナがかえっているのを知らせてくれた小学生のお友達もいました。16.4ha、博物館の敷地としては日本一の広さを有するミュージアムパーク茨城県自然博物館の野外、そこには、四季折々の、多彩な自然の表情が見られます。

この広い敷地でどうエンジョイするか。そのお役に立てればということで作られたのが、ひとりで学べる「野外セルフガイド」です。これには、現在、年間編・地学編・春編・夏編・秋編・冬編の6種類ありますが、まもなく自然発見器編も完成の予定です。いずれもイラストによるわかりやすい地図入りですので、園内を探検するには最適の資料です。



とんぼの池と観察デッキ



野外セルフガイド一覧

野外セルフガイド[夏]より

夏の昆虫を観察しよう

初夏から夏の盛りまでの3ヶ月は、昆虫たちがいちばん活動する季節です。春の間に成長した幼虫がいっせいに成虫になります。

■昆虫の卵、クヌギの樹液にはカブトムシをはじめ何種類もの甲虫やチョウが集まっています。そっと観察してみましょう。ズズメバチもやってくるので気をつけてください。



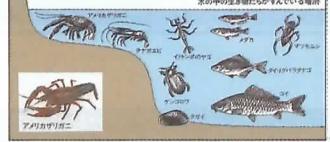
コドリクワガタ

センゴズメバチ

水辺の動物を観察しよう

暑い夏は水辺にいく機会も多くなることでしょう。そんな時、ちょっと水の中の生き物を観察してみましょう。

■池や沼の中にはいろいろな生き物が住んでいます。どんなところにどんな生き物が住んでいるのか、観察してみましょう。



野外セルフガイド年間編には、春夏秋冬の自然の概要ばかりではなく、園内各所の名称、施設、主な解説板、観察コース（ネイチャートレイルコース）などが記されています。この観察コースは、園内の自然を、興味に応じて効率よく観察して頂くために設定したもので、①草と木、②虫と鳥、③石と岩、④自然発見器、⑤水の5種類あり、それぞれ個性豊かです。

地学編では、大空に広がる雲の名称や、園内の各所で観察できる様々な岩石についての紹介があります。また、化石の広場で掘り出せる主な化石類も写真で見られます。

春・夏・秋・冬編は、季節ごとに、どこでどんな動物や花などが見られるかというご案内ばかりでなく、各季節の自然観察の観点・ポイントをわかりやすく紹介し、実際に観察したものを書き留めて頂けるように作られています。さらに、裏表紙には、園内各所に配置されている動物クイズ・植物クイズ（各20問）の解答欄もあります。この正解は、自然発見工房にあります。

新しい発見へのドアがいっぱい載っている「野外セルフガイド」、本館・野外発券所、および自然発見工房等で配布しております。是非ご利用下さい。そして、園内の豊かな自然を体験し、発見の喜びを味わって下さい。
(教育課：的場)

コラム by director NAKAGAWA ○遊びは学び

先日、野外施設の方を巡回していました。「水の広場」の流れの中で、家族連れで来ていた子どもさんが、全くのスッポンポンではしゃいでいました。

まぶしいような太陽の光の下で実に自然にとけ込んでいたように思い、しばらく見っていましたら、お母さんが私に気づき、すぐに水遊びをやめさせようとします。

確かに「水の広場」は、自然博物館としての目的をもった空間にはちがいありません。

しかし、バース(R.S Barth)がいうように”幼児における遊びと遊びは区別できない”というのが本当だろうと思います。

危険に注意し、保護者がそばでみている限り、子どもたちの遊びは、できるだけ尊重してやってよいのではないでしょうか。

子どもたちは、そこからきっと何かを学んでいるはずですから――。



スポット○国王神社（岩井市）

この神社は平安時代の中期に、この地方を本拠として関東一円を平定した剛勇の武将として知られている平将門公を祭神としています。

岩井市には平将門にまつわる史跡が数多く残されており、なかでも市の北に位置する国王神社は、平将門に最も縁の深いところとして有名です。

秘蔵されている将門の木像は、公の三女如蔵尼が三十三回忌に父の姿をきざんだものとされ、神社の御神体となっており、本殿とともに茨城県文化財に指定されています。

この他の平将門ゆかりの史跡としては、延命寺山門、延命院、石井の井戸など有名です。



トピックス●(3月~5月)



內蒙古文化厅長来館

4月2日(日)

入館者が90万人に達したこの日、中国内蒙古自治区文化厅の焦雪岱厅長が本館を視察されました。

焦庁長一行は米国アトランタのファーンバンク博物館での、内蒙ゴ恐竜展の設営の帰途、当館に立ち寄ったもので、「内蒙自治区博物館と友好関係にある茨城の博物館を是非とも見たい」という、焦庁長たっての希望により、今回の来館となりました。

アメリカから中国へ帰る飛行機のスケジュールの間を利用した、わずかな時間のご視察でしたが、館の展示をご覧になった後、焦文化庁長は「満足しました。今後ますます友好関係を深めていきたい。」とおっしゃられ帰国されました。

虫・進化の申し子たち 企画展イベント大好評!!

インセクトトーク&ウォッチング

—チョウの楽しい話と観察会—

4月29日(土)

28名の参加者たちは、講座室でチョウとガの違いやチョウの翅がなぜきれいに見えるのかなどの話を聞いた後、野外に出て実際に生きているチョウ



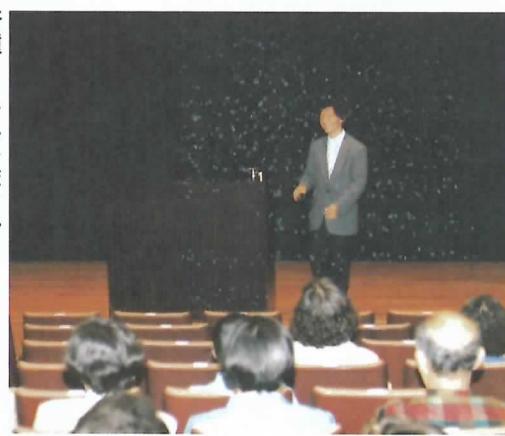
ウの観察を行いました。子どもたちは採集網を持って一生懸命にチョウを追っていました。

この他には、トンボ(5/7)とハチ(5/27)についての楽しい話と観察会を開き、それぞれ23人、24人の参加がありました。

新種イリオモテボタル

新種イリオモテボタル
発見者 大場

大場博士の講演会



5月14日(日)
昨年の年末に、沖縄県の西表島で新種のホタルを発見された横須賀市自然博物館の大場信義先生を講師にお迎えし、映像ホールで講演会を開催しました。

大場先生は、ホタル研究のきっかけやイリオモテボタルの発見の経緯とその特徴、なぜ緊急保護指定種となったかなどと共に、その保護と研究の必要性などについて講演されました。

『昆虫を描いてみよう』表彰者発表

サンディ・サイエンスの5月のテーマは、『昆虫を描いてみよう』でした。5月の祝祭日と日曜日に実施し、計211人の参加をいただきました。

参加者たちは、昆虫の全身あるいは翅や頭などのからだの一部分を、観察器具を使って細部まで気をつけながら描いていました。

作品は企画展示室の出口付近に展示され、5月末に審査を行いました。入賞者には賞状と記念品を贈らせていただきました。

【館長賞】	神垣 昌幸	【副館長賞】	宮崎 誠
【入賞】	渡辺 ゆき	北峰 幸	小幡 えり
望月まどか	根本しんや	磯谷あいな	竹内のぶひろ
今野あや花	平野 光	久保田佳奈	桜井理沙子
清水 恵	吉田 香織	伊藤 大	小林 優夏
松本 裕子	野口 佳子	古関 博章	金子 和美
柴山真由美			(敬称略)

MC(ミュージアムコンパニオン)衣替え

6月1日からミュージアムコンパニオンのユニフォームが替わりました。

今回の衣替えは、夏期(6~9月)のユニフォームとして着用するもので、従来の落ちついたワインカラーから、明るくさわやかな、夏をイメージする色合いに変更になりました。

これに伴い、展示室の雰囲気も一段と明るくなりましたので、この期間中是非ともご来館下さい。



左：夏期のユニフォーム
下：通常のユニフォーム

インフォメーション(7~9月の行事)

自然教室(定員40名)

- 7月8日(土)10:00~(受付9:30~)
『水草を調べよう』
- 8月12日(土)10:00~(受付9:30~)
『夏の昆虫を調べよう』
- 9月9日(土)10:00~(受付9:30~)
『赤土の中のいろいろな鉱物』
- ※小・中学生が対象です

自然講座(定員40名)

- 7月2日(日)10:00~(受付9:30~)
『絶滅危惧植物のはなし』
- 8月6日(日)10:00~(受付9:30~)
『白亜紀の恐竜たち』
- 9月3日(日)10:00~(受付9:30~)
『プランクトンの世界』
- ※高校生以上を対象としています

えいが会(定員約300名) [講堂・映像ホール]

- 7月16日(日)『スタンド・バイ・ミー』
- 7月30日(日)『ダンボ』
- 8月20日(日)『ジュラシックパーク』
- 9月17日(日)『野生のエルザ』
- 上映時間 14:00~(7/16のみ、15:00~), 入場無料

自然観察会(定員40名)

- 7月23日(日)10:00~(受付9:30~)
『沼の魚たち』
- 8月27日(日)10:00~(受付9:30~)
『土壤動物の観察と実験』
- 9月24日(日)10:00~(受付9:30~)
『秋の七草を探そう』
- ※どなたでも参加できます

サンデー・サイエンス

一楽しい体験教室一
毎週日曜日にディスカバリー・プレイス内のスタディルームで実施しています。
観察や実験、工作などを通じて、楽しみながら自然への関心を深めることができます。

皆さん、ふるって御参加ください。

テーマ 7月『化石のレプリカをつくろう』
8月『うろこでわかる魚の世界』
9月『シダのあかちゃんを観察しよう』

時 間 午前の部 10:30~12:00
午後の部 14:00~15:30
受 付 開始時間の20分前から、スタディルームの前で行います。
定 員 20名

[各講座等への申込方法]

事前に電話で申込願います。
ミュージアムパーク茨城県自然博物館
Tel 0297-38-2000

夏休み自然相談(7、8月)・なんでも相談(9月)

自然についてわからないこと、ふしぎだな、と思っていることなど、なんでも気軽にご相談ください。
相談方法 博物館あてに質問を郵送するか、直接ご来館ください。

相談日 7月23日(日)講座室
及び場所 8月25日(金)~27日(日)講座室
9月10日(日)ディスカバリー・プレイス観察カウンター
時 間 14:00~16:00

7月						
日	月	火	水	木	金	土
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

[交通案内]



[編集後記] 野外ではいろいろな花が次々と咲き替わって、昆虫たちが忙しく活動しています。野外で観察を行うの

には一番おもしろい季節ですので、どんどん博物館活動に参加してみましょう。日頃は見過ごしてしまっている小さなこ

とも、それを発見したときの感動は大きいものです。楽しみながら何か新しい発見をしてみませんか。(T.S.)

ご利用案内

[入館料]

区分	本館・野外施設	野外施設のみ
小・中学生	100円(50円)	50円(30円)
高校・大学生	300円(200円)	100円(50円)
大人	500円(400円)	200円(100円)

(注) : ()内は団体料金(20人以上)
企画展開催期間中については別料金となります。

次の日の入館料は無料です。

- 3月21日(春分の日)
- 4月29日(みどりの日)
- 6月5日(環境の日)
- 11月13日(茨城県民の日)

[開館時間]

午前9時30分から午後5時まで

(入館は午後4時30分まで)

[休館日]

- 毎週月曜日 (祝日の場合はその翌日)
- 12月27日から1月4日まで

[鉄道・バス] (水戸・東京方面から常磐線利用の場合)

(東武野田線)	(茨城急行)	(徒歩)
JR柏駅	24分	20分
		自然博物館入口
		博物館(54分)
(常総線)	(関鉄バス)	(茨城急行)
JR取手駅	30分	20分
		辺田三叉路
		自然博物館入口
		博物館(1時間10分)
(笠間・下館・結城方面から水戸線利用の場合)		
(常総線)	(関鉄バス)	(茨城急行)
JR下館駅	55分	20分
		辺田三叉路
		自然博物館入口
		博物館(1時間35分)